

令和元年7月22日（月）
午後3時
議会棟5階 第2委員会室

教育委員会定例会

議 案 書

傍 聴 人
閱 覧 用

退席時はお返却願います。

寝屋川市教育委員会

報告事項

報告第14号 職員の分限処分について

報告第15号 寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会の答申について

議決事項

議案第25号 寝屋川市教育委員会事務局の内部組織に関する規則の一部を改正する規則について

議案第26号 令和2年度使用中学校教科用図書の採択について

議案第27号 令和元年度寝屋川市立小中学校校長・教頭及び指導主事候補者の推薦について

署名人

高須教育長

真野教育長職務代理者

6月・7月教育委員会一般事務報告

(6月11日～7月22日)

月	日	曜	行事名	内容	場所
6	16	日	市民体育大会少林寺拳法の部	大会	市民体育館
			北河内地区総合体育大会(第2日目)	大会	北河内各市施設
	19	水	6月市議会定例会(第1日目)	市長所信表明、付議事件即決、委員会付託	市議会議場
	23	日	北河内地区総合体育大会(第3日目)	大会	北河内各市施設
	27	木	6月市議会定例会(第2日目)	代表質問	市議会議場
	28	金	6月市議会定例会(第3日目)	代表質問	市議会議場
6	30	日	北河内地区総合体育大会(第4日目)	大会	北河内各市施設
7	1	月	令和元年度管理職選考	校長・教頭・指導主事選考	総合教育研修センター
	2	火	校長役員会	7月校長会の案件について	総合教育研修センター
			第2回寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会	令和2年度使用小学校教科用図書の採択について	総合教育研修センター
	3	水	文教生活常任委員会	付託事件審査、所管事項事務調査	議会棟5階 第2委員会室
			予算決算常任委員会(分科会)	付託事件審査、所管事項事務調査	議会棟5階 第2委員会室
			北河内地区教育長協議会		守口市役所
	4	木	校長会	教育委員会各課からの連絡	総合教育研修センター
	5	金	予算決算常任委員会(全体会)	討論、採択	議会棟4階 第1委員会室
			大阪府都市教育長協議会	定例会	ホテルアウィーナ大阪
	7	日	北河内地区総合体育大会(第5日目)	大会	北河内各市施設
			囲碁・将棋活動推進運動前期(～9月7日 10講座)	囲碁の講座	池の里市民交流センター 市民会館
	8	月	北河内地区教育長協議会(～9日)	管外研修	静岡県静岡市
			6月市議会定例会(第4日目)	委員長報告、追加事件即決	市議会議場
	9	火	第3回寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会	令和2年度使用小学校教科用図書の採択について	総合教育研修センター
	10	水	令和元年度管理職選考	校長・教頭・指導主事選考	総合教育研修センター
	13	土	埋蔵文化財資料館企画展「寝屋川歴史百科～郷土の過去を知り、思いを馳せる～」(～令和2年7月5日)	文化財の展示	埋蔵文化財資料館
14	日	寝屋川ミュージックデー	吹奏楽演奏	市民会館	
16	火	教頭会	教育委員会各課からの連絡	総合教育研修センター	
22	月	教育委員懇話会		本庁2階 特別会議室1	
22	月	教育委員会7月定例会		議会棟5階 第2委員会室	

7月・8月教育委員会行事計画書

(7月23日～8月31日)

月	日	曜	行事名	内容	場所
7	23	火	小学生・中学生サミット	各校の取組交流等	第五小学校 エスポアール
			ねやがわプールのズ「ねやぷー」 (～24日)	水遊び場	三井小学校
	25	木	令和元年度第2回社会教育委員会 会議	1. 社会教育部所管事業について、2. その他	議会棟5階 第2委員会 会室
			北河内地区総合体育大会総合開 会式	式典	枚方市
	26	金	大阪府都市教育長協議会(1日 目)	夏季研修会	ホテルアウィーナ大阪
	27	土	ねやがわプールのズ「ねやぷー」 (～28日)	水遊び場	石津小学校
31	水	ねやがわプールのズ「ねやぷー」 (～2日)	水遊び場	桜小学校	
8	2	金	校長夏季研修会	小中一貫教育について	総合教育研修センター
			大阪府総合体育大会総合開 会式	式典	ホテルアウィーナ大阪
	5	月	ねやがわプールのズ「ねやぷー」 (～7日)	水遊び場	神田小学校
	13	火	学校園閉庁日(～15日)	「学校園閉庁日」実施	市立幼小中学校園
	18	日	大阪府総合体育大会 (1日目)	大会	大阪府北ブロック
	19	月	教育委員懇話会		本庁2階 特別会議室 1
			教育委員会8月定例会		本庁2階 第1会議室
	23	金	大阪府都市教育長協議会(2日 目)	夏季研修会	ホテルアウィーナ大阪
	25	日	大阪府総合体育大会 (2日目)	大会	大阪府北ブロック
	26	月	教育行政事務の点検及び評価に 関する会議	事務の点検及び評価	議会棟5階 第2委員 会室
	27	火	寝屋川教育フォーラム2019	講演会等	市民会館
	28	水	校長役員会	9月校長会の案件について	総合教育研修センター
	29	木	教育行政事務の点検及び評価に 関する会議	事務の点検及び評価	水道局3階 会議室
	30	金	校長会	教育委員会各課からの連絡	総合教育研修センター

報告第14号

職員の分限処分について

寝屋川市教育委員会教育長に対する事務の委任等に関する規則第3条の規定により、別紙のとおり臨時に代理したので、教育委員会に報告し承認を求める。

令和元年7月22日提出

寝屋川市教育委員会
教育長 高須 郁夫

辞 令

寝屋川市教育委員会職員



地方公務員法第28条第2項第1号の規定により

令和元年9月1日まで休職を命ずる

令和元年7月2日

寝屋川市教育委員会

報告第15号

寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会の答申について

寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会に諮問した令和2年度使用小学校教科用図書の選定について答申を受けたので、教育委員会に報告し承認を求める。

令和元年7月22日提出

寝屋川市教育委員会
教育長 高須 郁夫

議案第25号

寝屋川市教育委員会事務局の内部組織に関する規則の一部を改正
する規則について

寝屋川市教育委員会事務局の内部組織に関する規則の一部を改正するため、教育委員会の議決を求める。

令和元年7月22日提出

寝屋川市教育委員会
教育長 高須 郁夫

提案理由

寝屋川市教育委員会に対する事務委任規則の一部改正に伴い、寝屋川市教育委員会事務局の内部組織に関する規則の一部改正を行うため。

寝屋川市教育委員会規則第 号

寝屋川市教育委員会事務局の内部組織に関する規則の一部を改正する規則

寝屋川市教育委員会事務局の内部組織に関する規則（昭和50年寝屋川市教育委員会規則第7号）の一部を次のように改正する。

第5条の表学校教育部学務課の項事務分掌の欄第15号中「私立幼稚園」の次に「(特定教育・保育施設を除く。以下この項において同じ。)」を加え、同欄に次の2号を加える。

(17) 私立幼稚園に係る施設等利用費の支給に関すること。

(18) 私立幼稚園に係る地域子ども・子育て支援事業（副食の提供に要する費用の助成に限る。）に関すること。

附 則

この規則は、令和元年10月1日から施行する。

寝屋川市教育委員会事務局の内部組織に関する規則

No. 1

改 正 案		現 行 行																	
<p>第5条</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 10%;">部</th> <th style="width: 10%;">室</th> <th style="width: 10%;">課</th> <th style="width: 70%;">事務分掌</th> </tr> <tr> <td>学校教育部</td> <td></td> <td>学務課</td> <td>(15) 私立幼稚園(特定教育・保育施設を除く。以下この項において同じ。)の助成及び連絡調整に関すること。 (16) (略) (17) 私立幼稚園に係る施設等利用費の支給に関すること。 (18) 私立幼稚園に係る地域子ども・子育て支援事業(副食の提供に要する費用の助成に限る。)に関すること。</td> </tr> </table>	部	室	課	事務分掌	学校教育部		学務課	(15) 私立幼稚園(特定教育・保育施設を除く。以下この項において同じ。)の助成及び連絡調整に関すること。 (16) (略) (17) 私立幼稚園に係る施設等利用費の支給に関すること。 (18) 私立幼稚園に係る地域子ども・子育て支援事業(副食の提供に要する費用の助成に限る。)に関すること。		<p>第5条</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 10%;">部</th> <th style="width: 10%;">室</th> <th style="width: 10%;">課</th> <th style="width: 70%;">事務分掌</th> </tr> <tr> <td>学校教育部</td> <td></td> <td>学務課</td> <td>(15) 私立幼稚園の助成及び連絡調整に関すること。 (16) (略)</td> </tr> </table>	部	室	課	事務分掌	学校教育部		学務課	(15) 私立幼稚園の助成及び連絡調整に関すること。 (16) (略)	
部	室	課	事務分掌																
学校教育部		学務課	(15) 私立幼稚園(特定教育・保育施設を除く。以下この項において同じ。)の助成及び連絡調整に関すること。 (16) (略) (17) 私立幼稚園に係る施設等利用費の支給に関すること。 (18) 私立幼稚園に係る地域子ども・子育て支援事業(副食の提供に要する費用の助成に限る。)に関すること。																
部	室	課	事務分掌																
学校教育部		学務課	(15) 私立幼稚園の助成及び連絡調整に関すること。 (16) (略)																
<p>附 則</p> <p>この規則は、令和元年10月1日から施行する。</p>		<p>附 則</p>																	

議案第26号

令和2年度使用中学校教科用図書の採択について

令和2年度使用中学校教科用図書の採択のため、教育委員会の議決を求める。

令和元年7月22日提出

寝屋川市教育委員会
教育長 高須 郁夫

提案理由

令和2年度使用中学校教科用図書の採択を行うため。

中学校用教科書

種 目	発行者略称	書 名
国 語	光村図書出版	国語
書 写	東京書籍	新編 新しい書写
社 会 (地理的分野)	帝国書院	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土
社 会 (歴史的分野)	東京書籍	新編 新しい社会 歴史
社 会 (公民的分野)	日本文教出版	中学社会 公民的分野
地 図	帝国書院	中学校社会科地図
数 学	新興出版啓林館	未来へひろがる数学 MathNavi ブック
理 科	新興出版啓林館	未来へひろがるサイエンス マイノート
音 楽 (一 般)	教育芸術社	中学生の音楽
音 楽 (器楽合奏)	教育芸術社	中学生の器楽
美 術	光村図書出版	美術
保健体育	東京書籍	新編 新しい保健体育
技術・家庭 (技術分野)	東京書籍	新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology
技術・家庭 (家庭分野)	東京書籍	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して
外国語 (英 語)	開隆堂出版	SUNSHINE ENGLISH COURSE
特別の教科 道徳	日本文教出版	あすを生きる

平成 28 年度使用
寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書について

(答申)

寝屋川市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

1. 発行者（会社名） 5社
2. 東書 11. 学図 15. 三省堂 17. 教出 38. 光村

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

東書では、互いに考えを高め合うことを意識した教材が取り扱われている。学図では、意見を交流したり共有したりする教材が取り扱われている。三省堂では、様々な対話や考えをまとめる場面設定を行っており、教出では課題を解決することを意識した教材や言語活動が、光村では生活や他教科に生かすことを意識した教材が取り扱われている。

<人権の取扱い>

学図では、各学年で、「生命」をテーマとした単元を設定し、言葉を通して生について理解を深める教材が取り扱われている。東書では、「読書への招待」で、命の尊さや生き方を考える教材が取り扱われており、関連図書から学習が深められるように工夫されている。三省堂、学図では、手話を取り上げている。また、三省堂では点字を掲載している。

<内容の程度>

東書の「学習を始める前に」では、授業を受けるときの具体的なポイントが示されている。また、古典教材にカラー折り込み資料を用いて興味・関心が深められるように工夫されている。三省堂では、学び方の基礎・基本から振り返りながら取り組むことができるよう工夫されている。教出では、「言葉と出会う」という単元を通して、小学校の学びを振り返り中学校の学習がスタートできるよう配慮されている。光村では、「漢字を確認しよう」で書き込み式の問題を取り上げており、定着を図りやすくなっている。

<組織・配列>

三省堂では、「読み方を学ぼう」で読むための技術が取り扱われている。学図では、単元初めの教材には脚問が設定され、読解が深まるようになっている。教出では、小学校国語から高等学校の国語総合につながるよう構成されている。光村では、古典の導入で音読から学習が始められるよう工夫されている。

<創意工夫>

東書では、レポートや手紙・スピーチなど他教科の学習や実生活で生きる言語活動が豊富に扱われている。光村では、修学旅行記など生活場面に沿った題材がある。また、読書案内もあり読書の価値を実感できるよう工夫されている。教出では、日本の自然や四季の美しさを感じ取れる教材が多く扱われている。

<補足的な学習・発展的な学習>

学図では、「学びの窓」に「ついた力を確かめよう」として生徒に自己評価させる観点を示している。三省堂では、「学ぶ力を高めよう」で国語や他教科での学習に活用できる7つの方法が示されている。光村では、「資料」で、本編と関連した読み物教材が取り上げられている。また、学習で参考となる表現のテーマ等の言語活動に関する資料が示されている。

平成28年度使用教科書（中学校）答申 種目【書写】

1. 発行者（会社名） 5社

2. 東書 11. 学図 15. 三省堂 17. 教出 38. 光村

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、学習した内容を日々の学習や実生活に生かせるような指導内容となっている。東書では、行書における導入を4つの動きで展開し、実践的な行書指導に向けて、工夫している。

<人権の取扱い>

東書、三省堂、光村では、地域の人々や国際的なつながりを大切にして、相手を思いやり、分かりやすく伝えるなど、社会への意識を高めるよう配慮されている。東書、教出では、職場訪問や防災訓練などの社会と関わる行事での礼状等を取り上げるなど配慮している。

<内容の程度>

東書、三省堂では、国語の教科書にある文学教材を硬筆教材として取り上げ、国語の授業との関連に配慮されている。教出では、楷書と行書の変化を1ページにまとめ、楷書と行書の違いが見やすく、わかりやすくなっている。

<組織・配列>

東書、学図、三省堂、光村では、毛筆で学んだことを硬筆で生かせるように、毛筆と硬筆の系統性を示している。教出では、「試し書き」「まとめ書き」等、毛筆が硬筆の学習の基礎として位置付けられている。

<創意工夫>

東書では、いろいろな書き方や筆記具を、用途に応じて使い分けできることを示している。学図では、様々な筆記具を使用した具体例を挙げ、生活や他教科での活用場面につながるよう具体的に提示されている。教出では、筆の使い方を、見開き1ページを使って、大きくわかりやすく示している。

<補充的な学習・発展的な学習>

東書、三省堂、教出、光村では、文字の歴史や書写の文化への理解を深め、文字に興味・関心をもつよう、伝統的な文字文化に親しめるよう工夫されている。学図では、学校行事に関連する教材を多く取り上げ、身の回りの多様な文字への関心を高めている。

1. 発行者 (会社名) 4社
2. 東書 17. 教出 46. 帝国 116. 日文

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、「世界の諸地域」「日本の諸地域」では、写真や地図等を用い、地域的特色や課題をとらえさせるように構成されている。東書では、多くの写真を用いながら、各地域を概観できる構成がされ、帝国では、大きな写真を掲載し、地域的特色を理解できるように構成されている。教出では、大きな地図を掲載し、日文では「言語活動コーナー」や「学習の確認と活用」を設けることで、地域的特色をよりいっそう深めることができるように構成されている。

<人権の取扱い>

各社とも、宗教と衣食住等が、多文化共生の観点で取り扱われている。教出、日文では言語についても世界の分布図を用いながら取り扱っている。帝国では、世界の食文化と人々の姿が取り扱われており、東書では、世界各地の例を挙げ、食生活の多様性について取り上げている。

<内容の程度>

領土問題について、各社とも図や写真を用いながら竹島・北方領土・尖閣諸島について取り扱っている。東書では、本文で基礎的な内容についてまとめられている。教出では、本文がわかりやすく簡潔にまとめられており、帝国、日文では、現状や経緯について詳しく説明がされている。また帝国では注釈により確認しやすい配慮もされている。

<組織・配列>

帝国では導入に興味や関心をひく資料や写真を大きく配置し、地域的特色を大観できるようにされている。東書では、概観・主題設定・追求・まとめと単元を構造化することで、地域的特色の理解を確実にするための配慮がされている。教出、日文では、導入に課題設定をイメージできるような写真や図・資料を配置している。

<創意工夫>

教出では、主題・副題をおき、併せて学習課題を明示することで、課題意識をもって学習に取り組めるように工夫している。帝国では、未来の社会に参考になる取組みを紹介する「羅針盤マーク」を設け、興味・関心を高める工夫をしている。日文では、コラム「地理+α」や特設ページ「自由研究」「地域からのメッセージ」を設け、地理の学習を掘り下げ、内容をより深く理解できるように工夫をしている。

<補足的な学習・発展的な学習>

東書では、章ごとに振り返りのためのページがあり、学習内容が確実に定着するようにされている。帝国では、「確認しよう」で、単元の基礎的・基本的な知識を定着させることができるようになっている。日文では「学習のまとめ」において、単元の基礎的・基本的な知識を整理・定着させることができるようになっている。

1. 発行者(会社名) 8社

1. 東書 17. 教出 35. 清水 46. 帝国 116. 日文 225. 自由社
227. 育鵬社 229. 学び舎

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、各章の導入として、その時代の様子を表す図が紹介されており、各時代の特色を捉えやすい構成となっている。東書では、各章末の「この時代の特色をとらえよう」で、「比較表」「ディスカッション」といった多様な言語活動により、時代の特色を捉えられるようにしている。

<人権の取扱い>

各社とも、様々な人権問題について取り上げ、生徒の理解を深めている。帝国では、「人権」コラムとして、詳細な記述がされている。育鵬社では、「なでしこ日本史」として、歴史上の女性を紹介するコラムを各章末に設け、各時代で重要な役割を果たしてきた女性を取り上げている。

<内容の程度>

東書では、各章のはじめに、小学校の学習を振り返るとともに、小学校の学習内容に中学校の学習が積み上げられるよう配慮している。日文では、各時代の導入「年表」、本文ページの脚注の「連携コーナー」において、小学校で学んだ人物・文化遺産などを再確認できるようになっている。

<組織・配列>

各社とも、授業展開や学習の見通しがつきやすいように、見開き2ページで1単位時間としている。教出では、各節が、世界史→日本史の順で、大まかな世界史を理解して、詳しく日本史を学習する配列になっている。清水では、見開きページを、左右に資料と本文を整理して配置し、本文の箇所と資料の箇所を薄く色分けすることで、視覚的に分かりやすいようレイアウトされている。

<創意工夫>

帝国では、「技能をみがく」として、歴史的事象について、自分の考えをまとめて伝える際のポイントが詳細に示されており、技能の習得への配慮がされている。学び舎では、学習ごとの見出しに印象的なフレーズが用いられるとともに、学習内容と関連した下段のコラムと合わせ、興味・関心が持てるようになっている。

<補足的な学習・発展的な学習>

東書では、巻末に「用語解説」を掲載し、歴史用語の確実な定着を図っている。教出では、特設ページ「〇〇から(の)歴史を探ろう」を設け、本文の学習から、多面的な視野で興味や関心を広げていけるよう配慮されている。日文では、「でかけよう!地域調べ」などで、身近な地域の歴史を調べる学習が設定され、作業的・体験的な学習例が豊富に紹介されている。自由社では、各章末に「歴史豆辞典:100字用語解説」を設け、学習内容の確実な定着を図っている。

1. 発行者 (会社名) 7社

2. 東書 17. 教出 35. 清水 46. 帝国 116. 日文 225. 自由社
227. 育鵬社

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも現代社会を捉えるため多面的・多角的な見方や考え方を学ぶことができるように、生活に身近な事例を通して考えさせるよう配慮している。また、地理・歴史・公民の3分野の関連について、東書では「分野関連」マークで、帝国では「地理・歴史をふりかえる」という項目で、日文では「連携コーナー」を脚注に設けている。自由社では序章で地理・歴史の学習を振り返り、教出では巻頭の年表で、清水では巻頭の世界地図と巻末の現代史年表で、育鵬社では巻頭で、三分野の概念図を配置している。

<人権の取扱い>

各社とも、人権問題が幅広く取り上げられている。また、教出では巻頭で実際に点字に触れられるよう、日文では堺市を例に挙げて同じく点字に触れられるようにすることでバリアフリー社会に着目させている。

<内容の程度>

清水は常体、東書、教出、帝国、日文、自由社、育鵬社では敬体で書かれている。各社とも生活に身近な事例を通して生徒が興味・関心を持って学習できるよう工夫されている。

<組織・配列>

単元配列について、日文では政治学習において地方自治から国政の順、東書、教出、清水、帝国、自由社、育鵬社では国政から地方自治の順に配列されている。教科書のサイズは東書、教出、帝国、日文、育鵬社ではABワイド版である。また、各社ともページ左右には図表等の資料や解説が配置されている。

<創意工夫>

東書、教出、帝国、日文、育鵬社では言語活動が多く取り入れられ、思考力・判断力・表現力を育成する学習展開となるよう工夫されている。また、各社とも自ら課題を見つけ、レポート等にまとめさせることでよりよい社会の形成に参画する資質や能力を育成できるよう工夫されている。帝国、日文では巻末の憲法条文で朱書きや下線をひくなど注釈に工夫を入れてわかりやすくなっている。

<補充的な学習・発展的な学習>

各社とも、学習内容が整理できるよう工夫されている。また、発展的な学習として、現代社会の課題を提示したりすることで学習内容を深められるように配慮されている。

1. 発行者（会社名） 2社

2. 東書 46. 帝国

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

東書では、貿易・文化をはじめ、様々なテーマについて、世界と日本の関係を示す資料図を掲載し、多面的・多角的に捉えられるよう工夫されている。帝国では、日本の現状が世界と比較して示されており、多面的・多角的に日本と世界の関わりを見ることができるよう工夫されている。

<人権の取扱い>

各社とも、生活や文化、宗教等、それぞれの地域や国の特性について、広く示しており、多様な視点を大切に配慮している。

<内容の程度>

東書では、関連する地図や資料のページや箇所が分かるように、「ジャンプ」として明示している。帝国では、はじめに「地図帳の構成」を示しており、生徒が主体的に、地図帳を活用することができるよう工夫されている。

<組織・配列>

各社とも、地理的分野はもちろん、歴史・公民的分野での活用も想定し、提示されている。東書では、「一般図」「基本資料」「テーマ資料」の3部構成となっており、基本的な学習とより発展した学習に取り組めるように構成されている。帝国では、地域ごとに、「基本図」「拡大図」「資料図」が、まとまって示されている。各地域の特色を効果的に調べ、学ぶことができるよう配慮されている。

<創意工夫>

各社とも、写真やイラストが多く、世界の各国・各地域へ興味・関心を持つことができるよう工夫されている。東書では、防災についての意識を高めることができるよう配慮されている。帝国では、位置関係や面積の大きさ等で、日本とその他の国や地域が比較できるよう、世界の一般図において、いずれも日本が示されている。

<補充的な学習・発展的な学習>

東書では、「ジャンプ」で関連したページが示され、知識の定着を図る工夫がされている。帝国では、日本と世界とのつながりに関する資料を掲載し、資料を活用して日本を世界と比べ、説明する力を養う内容になっている。

1. 発行者（会社名） 7社

2. 東書 4. 大日本 11. 学図 17. 教出 61. 啓林館 104. 数研 106. 日文

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、数学的活動の楽しさや数学のよさが実感できるように構成されている。啓林館では、「みんなで話し合ってみよう」で、いろいろな答えや解決方法がある場面を取り上げ、数学的に説明し伝え合えるよう工夫されている。

<人権の取扱い>

各社とも、人権尊重や男女平等などの観点から適切に表記されている。また、他者との学び合いを大切にし、協同的に解決する態度が養えるようにされている。

<内容の程度>

各社とも、既習事項の学び直しができるよう工夫されている。東書では、1年巻末に小学校での既習事項のまとめが設定されている。啓林館では、別冊の「Math Navi ブック」に各章の学習内容と関連のある既習事項がまとめられている。

<組織・配列>

1年で学習する「図形」領域で、作図の方法は、東書では、「垂線」→「垂直二等分線」→「角の二等分線」の順に配列されている。学図・日文では、「垂直二等分線」→「垂線」→「角の二等分線」の順に配列されている。教出、啓林館、大日本、数研では、「垂直二等分線」→「角の二等分線」→「垂線」の順に配列されている。

<創意工夫>

東書では、「学び合い」に友だちと伝え合う題材を用いて表現力の育成を図る工夫がされている。学図、啓林館では、自由研究やレポートの記入例と課題が設定され、探究的な学習ができるように工夫されている。大日本では、「ハートの問題」で学習内容を調べるきっかけとなる課題を設定されている。教出では間に「伝えよう」などのラベルを付け、話し合う活動を促す工夫がされている。数研では、学習活動を明確に示し、また、日文では、話し合っ解決する課題を設定することで、言語活動の充実を図る工夫がされている。

<補足的な学習・発展的な学習>

各社とも、生徒の理解度に応じて取り組める問題や題材が設定されている。東書では、巻末課題編に生徒の興味・関心に応じて取り組めるように配慮された題材が分類して設定されている。啓林館では、別冊の「Math Navi ブック」や章末の「千思万考」に論理的に考えたり学習内容を深めたりすることができる課題が設定されている。

1. 発行者（会社名） 5社
2. 東書 4. 大日本 11. 学図 17. 教出 61. 啓林館

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、既習事項を活用できるよう工夫されている。また、東書では、「課題」に対する「結論」が「まとめ」として、わかりやすくなっている。「書く」「話す」のマークを入れ、思考力や表現力を育てるための重点としている。教出では、様々な箇所「活用しよう」が設けられ、より深く、広い思考ができるように考えられている。啓林館では「予想してみよう」「考えてみよう」「話し合ってみよう」において、科学的思考力・表現力の育成を図っている。

<人権の取扱い>

各社とも、環境保全を意識して学べるように工夫している。また、カラーユニバーサルデザインを配慮して作られている。

<内容の程度>

東書では、実験器具の取り扱いや基本操作の説明が詳しく取り上げられており、技能の向上を考慮している。学図、大日本では「話し合ってみよう」において、言語活動を伴う探究的な学習ができるようになっている。啓林館では、基礎だけでなく、発展的な内容にも細かくふれている。

<組織・配列>

各社ともに、単元のはじめにこれから学習する内容が示され、学習のイメージがとらえやすい。啓林館の別冊「マイノート」では、観察や実験に関わる「サイエンスアプローチ」と、学んだことの定着に関わる「ステップアップ」が取りあげられている。

<創意工夫>

各社ともに、コラムなどで理科の学習内容と、実社会・実生活との関連がわかるように配慮されている。

<補充的な学習・発展的な学習>

東書では、つまづきやすい内容については例題・練習・確認の流れで示し、基礎基本が定着するように工夫されている。学図では「なっとく!」「チャレンジ」「発展」で、学習した内容の正しい理解を促すとともに、発展的な内容も提示され、学習者の興味関心を広げる工夫がなされている。啓林館では「ふりかえり」や、青色シートを活用しての「学習のまとめ」などを通して、基礎基本が定着するように工夫されている。

1. 発行者 (会社名) 2社

27. 教出 27. 教芸

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

教出では、3年間を通して「三つの柱」で構成されており、表現及び鑑賞の幅広い音楽活動を通して、基礎的な能力を伸ばすことができるように、系統的な構成、内容となっている。教芸では、「音楽学習 MAP」により、「歌唱」「創作」「鑑賞」と教材との関連を図で示し、バランスのよい学習が行われることで、音楽の基礎的な理解力や技能が確実に身につけられるよう配慮している。

<人権の取扱い>

各社とも、我が国や諸外国の様々な音楽について幅広く取り扱われ、我が国の文化を理解し、諸外国の文化を尊重する態度が養われるよう配慮している。教出では、教育や福祉、医療の現場で活用されている音楽の持つ力について取り扱っており、教芸では、「国境を超えて影響し合う音楽」という特集で、西洋から影響を受けて発展してきた日本の音楽について掲載している。

<内容の程度>

〔共通事項〕について、教出では、学習する具体的な活動のポイントを側注に示し、教芸では、「学習の窓口」として指導すべき内容が捉えられるようマークで示している。また教出では、鑑賞において、音楽史と日本史が対比できるよう配慮されている。教芸では、変声期に配慮した選曲となっており、全学年で指揮法について取り扱っている。

<組織・配列>

各社とも、歌唱・鑑賞・創作において、発達段階に応じた段階的な学習活動ができるよう配慮しており、ひとつの単元の中に複数の観点で取り組めるよう構成されている。教芸では、「ここがわかれば Grade up!」を設け、単元の学習内容を踏まえて発展的に取り組めるよう設定されている。

<創意工夫>

各社とも、鑑賞においてワークシートを活用し、言語活動を意識した活動が取り入れられている。教出では、豊富な写真や図版での解説や、巻末見開きページの活用、著名な音楽家からのメッセージの掲載など、興味を持って学習することができるようにしている。教芸では、「音楽 MAP」に各教材・指導事項・〔共通事項〕との関連を示してあり、どの教材で何を学ぶのかわかりやすく提示されている。

<補足的な学習・発展的な学習>

教出では、「Let's Sing!」「Let's Try!」で補足的・発展的な学習が展開できるよう工夫されている。教芸では、ゲームを通して楽しみながらできる補足的な学習を取り上げ、「ここがわかれば Grade up!」や鑑賞の「Challenge!!」など、発展的な学習を取り上げている。

1. 発行者（会社名） 2社

17. 教出 27. 教芸

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、リコーダー、ギター、和楽器等について、写真や資料等でわかりやすく解説され、基礎・基本が習得されるように配慮されている。教芸では、打楽器についても取り上げられ、また、グループ活動を取り入れるなど、生徒が主体的に音楽活動が展開できる内容となっており、豊かな情操を養う内容となっている。

<人権の取扱い>

各社とも、我が国や諸外国の音楽を取り上げており、我が国や諸外国の文化を尊重する態度が育まれるよう配慮されている。教出では、生命を尊び環境の保全を意識できる大震災復興記念事業から生まれた作品が取り上げられている。教芸では、複数の楽器による合奏曲が多数取り入れられ、様々な楽器を用いて学習する中で、互いを認め合いながら学習できるように選曲・編曲に配慮されている。

<内容の程度>

教出では、基礎的な内容から発展的な内容までバランスよく取り上げており、和楽器についても親しみやすい曲を用いている。教芸では、楽器や奏法について簡潔に解説され、興味を持って基本的な奏法が習得できるとともに、様々な楽器や編成により演奏できるアンサンブル教材や「名曲スケッチ」など、無理なく楽しく取り組めるよう工夫がされている。

<組織・配列>

各社とも、基本的な奏法を学んだ後にアンサンブルに取り組む配列となっている。教出では、リコーダーの臨時記号などの運指図が楽譜の横に提示されており、和楽器では、五線譜に置き換えた楽譜が挿入されている。教芸では、基礎的な奏法の説明に加え、Q&A形式でわかりやすい解説がなされ、「Grade up!」で具体的な学習活動を手順に沿って示し、発達段階に応じた学習ができるよう配慮されている。

<創意工夫>

教出では、「日本の楽器と音楽」「さまざまな横笛」といった資料ページの設定があり、工作による和楽器の横笛作りを取り扱うことで伝統楽器を身近に感じられるよう工夫がされている。教芸では、各楽器の著名な奏者による演奏写真や楽器の写真、写真付きの奏法解説などを適宜取り上げている。また、各教材と学習指導要領の内容との関連を「音楽学習 MAP」により、わかりやすく示している。

<補充的な学習・発展的な学習>

教出では、「制作現場を訪ねて」にて、作品が完成する過程について解説されており、音楽を取り巻く環境を身近に感じられるような工夫をしている。教芸では、アンサンブルで多くの楽譜が示され、「ここが分かれば Grade up!」で生徒が互いに創意工夫しながらアンサンブルを豊かにするための工夫が盛り込まれている。

1. 発行者(会社名) 3社
9. 開隆堂 38. 光村 116. 日文

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、用具の取り扱いについて具体的に示され、安全に使用できるよう配慮されている。開隆堂では、題材ごとにねらいを示し、丁寧に創作過程を説明することで造形的な創造活動の基礎的能力が育まれるよう配慮されている。光村では、幅広い領域や分野での作品が取り扱われている。日文では、基礎的な知識・技術の習得から創造的な力が育まれるよう配慮されている。

<人権の取扱い>

各社とも、自己や他者のよさを尊重するような作品が取り扱われており、ユニバーサルデザインについても適切に取り扱われている。開隆堂では、平和や命の大切さを扱う作品が取り入れられている。

<内容の程度>

開隆堂では、各題材ごとに「ふりかえり」の4観点が表示されており、主体的に学習できるよう構成されている。光村では、形・色彩・材料・光などについて意識できるように「Q」として問いかけが提示されている。日文では、各題材に対して「学びのねらい」を示すとともに、さまざまな作品図版を例示している。

<組織・配列>

開隆堂では、地域・時代などに偏りがない図版や写真、イラストが適切な説明で構成されている。光村では、単元のテーマ目標が明確に示され、写真・図版の大きさやレイアウトなども工夫し構成されている。日文では、系統立てた題材が設定され、領域のつながりや関係性がわかりやすい。

<創意工夫>

各社とも、言語活動の充実を図る内容になっている。光村では、作品の制作過程が丁寧に説明されている。日文では、生徒の制作風景の写真や言葉で、作品の制作過程が示されている。

<補充的な学習・発展的な学習>

各社とも、日本の伝統文化と諸外国の文化について触れ、国際理解を深められるように配慮されている。開隆堂、日文では、身近な地域で美術を生かす内容が紹介されている。光村では、道徳と関連する内容がマークで表示されている。

1. 発行者(会社名) 4社

2. 東書 4. 大日本 50. 大修館 224. 学研

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

東書では、写真や「読み物」を通して、学研では、スポーツに関わる多くの人物が示されることで、生徒の興味・関心を高め、運動に親しむ資質や能力を育てる内容が取り扱われている。大日本では、「今日の学習課題」「考えよう」で授業のめあてや身近な活動が示され、自らの生活を振り返る等、生徒が学習しやすいように取り扱われている。大修館では、「Topic」「Q&A」などの身近な話題を取り上げ、運動や健康について生涯にわたって考える素地を育成する配慮がある。

<人権の取扱い>

各社とも、スポーツが国際親善や世界平和に大きな役割を果たすとともに、多様な人々を結びつけていることを理解できるように配慮されている。

<内容の程度>

東書では、各分野でイラスト・表・資料を多く扱っており、生徒が興味・関心をもって学習できるように配慮されている。大日本では、学校生活の場面の写真など、生活に身近な内容のイラストが掲載されるなど、生徒が興味・関心をもって学習できるように配慮されている。

<組織・配列>

東書では、保健編・体育編の内容を、学年ごとにまとめられて編集されている。大日本、大修館では、体育編と保健編に分けた構成で編集され、学研では、保健編と体育編に分けた構成で編集されている。

<創意工夫>

東書では、教科書の横幅を大きくとり、資料、写真等の情報を豊富にそろえて、興味・関心・意欲を高められるように工夫されている。大修館では、「Challenge」で学んだ知識を生かして自分の問題として考えられるよう課題が取り上げられている。学研では、「活用しよう」が随所に設けられ、言葉で説明したり、考えをまとめて発表したりするなどの活動が取り入れられている。

<補充的な学習・発展的な学習>

東書、学研では、各章末のまとめに基礎的・基本的な問題、活用問題が設けられており、個に応じて自主的な反復練習ができるように配慮されている。

1. 発行者（会社名） 3社
2. 東書 6. 教図 9. 開隆堂

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

東書では、各編の最後に、技術のプラス面・マイナス面を評価し、技術を未来に生かす内容が取り上げられている。教図では、ものづくりなどの実践的・体験的な学習内容が多く設定され、身のまわりの製品や、実習例も多く掲載されている。開隆堂では、「技術の評価・活用」において、技術の具体的な評価と活用の方法を学習する内容が記載されている。

<人権の取扱い>

各社とも、安全面に気を付けなければならない箇所に「安全」マークを付し、注意喚起できるよう配慮がされている。また、情報モラルや著作権等について、具体例を多く用い、実習の中で身に付けられるよう配慮されている。

<内容の程度>

東書では、「基礎技能」のページを設け、工具の名称や使用方法、作業手順等が示され、基礎的・基本的な技術が身に付けられるよう工夫されている。教図では、「コツ」マークを付し、実習が円滑に進むように示され、自ら課題に取り組むことができるよう工夫されている。

<組織・配列>

東書では、生徒が興味・関心を持って学習できるような写真の配置・構成となるよう工夫されている。また、見開き両ページにわたった写真を示すなど、一目で作業が分かるよう配慮されている。開隆堂では、内容の理解を助けるために、分かりやすいイラストや図表、写真を多く掲載している。

<創意工夫>

東書では、社会で活躍している人の経験などを「技術の匠」マークで示し、生徒の興味・関心を高めている。教図では、「木材の性質と利用」において、伝統的な技術の工夫を理解できるよう配慮されている。

<補充的な学習・発展的な学習>

教図では、各章の終わりに、「まとめ」と「章末問題」が設けられ、学習内容のふり返りと自学・自習ができるよう配慮されている。また、開隆堂では、「探究」マークを付け、学習内容を広げ深めることができるよう工夫されている。

1. 発行者 (会社名) 3社
2. 東書 6. 教図 9. 開隆堂

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

東書では、学習内容、目標が分かりやすく示されており、小学校の学習内容とも比較できるよう工夫されている。教図では、「自立度チェック」をすることで、学習の目標が明確になり、自らの課題を見つけ学習に取り組めるよう配慮されている。開隆堂では、各節の導入部分に、「考えてみよう」などが設定されており、主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。

<人権の取扱い>

各社とも、写真やイラストでも、男女が偏りなく描かれており、男女協力、共生について配慮されている。また、「安全」マークがあり、事故防止について配慮されている。

<内容の程度>

各社とも、課題や活動例が示され、生徒が自ら課題を見つけ、目的をもって学習できるよう配慮されている。教図では、「キーワードチェック」で、単元ごとの要点を確認し、見通しをもって学習できるよう工夫されている。

<組織・配列>

東書では、文章、図、写真の配置が整然としており見やすく、学習内容の理解が深められるよう構成されている。

<創意工夫>

東書では、わかりやすいマークを利用し、他の項目や他教科との関連も示している。教図では、生徒の関心を高めるように、導入として、「Q」が配置されている。「まとめよう」「考えよう」等の発問や資料、実習例が数多く提示され、主体的な学習ができるようになっている。開隆堂では、「参考」に多様な内容が紹介されており、生徒の興味・関心を高める工夫がされている。

<補足的な学習・発展的な学習>

東書では、実習例や「資料」が豊富に掲載されており、日常生活に生かせるよう工夫されている。教図では、「発展」は必要に応じて学習できるようになっており、さらに詳しい知識を補充し、取り扱う分量も多く、学習を深化・発展できるよう工夫されている。開隆堂では、「豆知識」コーナーで、学習内容を深めることができる内容が取り上げられている。

1. 発行者（会社名） 6社

2. 東書 9. 開隆堂 11. 学図 15. 三省堂 17. 教出 38. 光村

2. まとめ

<目標・内容の取扱い>

各社とも、会話場面を中心に構成されており、平和や環境問題等が取り上げられている。また、4技能がバランスよく学習できるようになっている。

<人権の取扱い>

各社とも、平和学習、文化理解等が題材として豊富に取り扱われ、生命を尊重し他者を思いやる豊かな人間性を育む内容となっている。

<内容の程度>

各社とも、1年では、身近な題材を取り上げるなど、各学年においてそれぞれの学年に応じた内容となっている。光村では、新出文法事項の基本文は本文から抜粋されており、本文と関連づけて理解できるよう工夫されている。

<組織・配列>

各社とも4技能を統合的に活用できるようになっている。三省堂では文構造や文法については、「GET」、「USE」、「Project」などの段階的な言語活動で活用することにより定着を図るよう工夫されている。開隆堂では各プログラムの新出文法事項についてスモールステップで学習できるようになっている。

<創意工夫>

各社ともペアワーク、グループワークなどを行えるように工夫されており、生徒同士によるコミュニケーション活動が促されるよう工夫されている。東書では1年の最初に入門期のパートが2つ設定されている。学図では小学校外国語活動との接続が意識されており、「音とつづりの関係」について段階的に取り扱われている。

<補充的な学習・発展的な学習>

開隆堂では巻末に「Extensive Reading」があり、長文問題のために必要な、速読力や読解力を育成するよう配慮されている。教出では、また別冊「Essentials」で学習した内容が確認できるようになっており、生徒が自学自習できるよう配慮されている。光村では他教科を英語で学習するCLILが記載されている。

議案第27号

令和元年度寝屋川市立小中学校校長・教頭及び指導主事候補者の推薦について

令和元年度寝屋川市立小中学校校長・教頭及び指導主事候補者を推薦するため、教育委員会の議決を求める。

令和元年7月22日提出

寝屋川市教育委員会
教育長 高須 郁夫

提案理由

令和元年度寝屋川市立小中学校校長・教頭及び指導主事候補者を大阪府教育庁へ内申するため。